

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370265

研究課題名(和文)江戸時代中期小説における中国文学の影響に関する研究

研究課題名(英文)Study on influence of a Chinese literature in Edo period middle term novels

研究代表者

井上 泰至 (Inoue, Yasushi)

防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工・人文社会科学群・教授

研究者番号：90545790

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：江戸中期の小説に影響を与えた重要な中国文学(特に白話小説)について、日本、および中国・フランスに残る資料の書誌調査を行った。この基礎的知見を踏まえつつ、江戸中期小説の代表的作品である「雨月物語」の典拠作品の本文・訓読・翻訳を精密に行い、それをふまえて、「雨月物語」が小説のストーリー・編集において影響を受けつつ、大きくその戦略を変更したケースと、典拠に寄り添いつつ、これをミニマムの変更で独自の作品に仕立てたケースとがあることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The bibliography of the document which remained in Japan and China, France investigated important Chinese literature (novel in colloquial Chinese in particular) that affected the novel which was in the middle of the Edo era. I clarified that there was the case which prepared this in an original work by the change of the minimum while snuggling up to a case and the authority that changed the greatly strategy while I performed text, Japanese reading, translation of the authority work of "Tales of Moonlight and Rain" that was the representative work of the novel in the middle of the Edo era with this basic knowledge in mind precisely and stood on it, and "Tales of Moonlight and Rain" was affected in a story, the editing of the novel.

研究分野：日本近世文学

キーワード：上田秋成 前期読本 白話小説

1. 研究開始当初の背景

中村幸彦・徳田武らの研究によって、初期読本が依拠した中国小説の具体的な作品はかなり明らかになってきているが、それらの諸本については、まだ明らかになっていないものも多かった。さらにその漢語、および訓や訓読の位相についても明らかにはなっていないかった。

また、そうした細部の詰めを行ったうえで、初期読本の作家が、どういうリライトを行った結果、原拠と対話しながら、新たな世界を構築していったのか、その小説としての戦略については、具体的に検証されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、初期読本の依拠した中国小説の本文・訓・訓読の位相を明らかにし、初期読本作家が依拠したであろう訓読文を再構築し、そのうえで、初期読本のリライトにあたり、特にキャラクター・ストーリー・シーン・ナレーション・ワールドモデルの各小説諸要素における実態について、新たな光を当ててことを目的としていた。

そのことによって、日本文学史上、本格的な小説作品の先駆けである初期読本が、中国小説のどの要素を学びつつ、あらたな展開を見せてその達成を成し遂げたかを、より精密に明らかにするものである。

3. 研究の方法

『古本小説叢刊』『古本小説集成』等に影印されていない、中国白話小説などの書誌と、中国白話小説集としては、日本への影響の点で最も重要な位置を占める『今古貴観』を中心に、日本(国立国会図書館・東京大学附属図書館・国立公文書館内閣文庫・天理図書館・九州大学附属図書館・佐伯市立図書館・京都大学附属図書館・金沢市立図書館など)・中国(北京国家図書館・北京大学図書館)・フランス(フランス国立図書館リシュリュ)の各所蔵先で調査した。

特に九州大学附属図書館では、有力な白話小説研究者であった石崎又造の旧蔵書とノート類を、佐伯市立図書館では、漢籍・唐本の名品・珍本のコレクターとして有名だった佐伯文庫のコレクションを、天理図書館では文盛堂本の『今古貴観』を、北京大学図書館および北京国家図書館では同文堂本の『今古貴観』を、フランス国立図書館リシュリュでは、『今古貴観』の初期刊本である宝翰楼本、および珍しい『覚世雅言』『覚世恒言』『覚世名言』を中心に調査を行った。

文献複写としては、九州大学附属図書館の石崎又造旧蔵本、および京都大学附属図書館・北京国家図書館などの資料について、必要に応じて行い、他は直接写真撮影をするか、書誌のメモを取ることで処理した。このため、新規にデジタルカメラを購入し調査に使用した。

諸本調査に当たっては、研究協力者の上智

大学元教授木越治、および日本学術振興会特別研究員の丸井貴史と分担して行った。

また、諸本・語彙・訓読については、丸井貴史の協力を得て行った。

井上は研究活動の全体を統括するとともに、最終年度には白話小説の所在確認・諸本について追加調査(大阪府立中之島図書館・東北大学附属図書館・米沢市立図書館・鹿児島尚古集成館・岡山大学附属図書館池田家文庫・島原市立図書館松平文庫・鹿児島県立図書館・京都大学附属図書館・天理図書館・津市立図書館有造堂文庫・鹿児島大学附属図書館玉里文庫・名古屋市蓬左文庫・岐阜県立博物館・岐阜市立博物館・岐阜市立図書館・岐阜県立図書館・兵庫県立篠山鳳鳴高校青山文庫)を行った。これらは、調査の過程で江戸期の大名コレクションに、中国白話小説がかなり所蔵されていたことが予想されていたためである。

これらを踏まえて、上田秋成の『雨月物語』を中心に、その中国小説からのリライトにつき検討し、その成果を取りまとめた。以下、それらを具体的に記す。

まず、都賀庭鐘や上田秋成の拠った本文を推定し、小説中の白話語彙の影響が及んだ漢字・漢語・訓を洗い直し、日本の当時の代表的な辞書や、近代以降の研究調査も参照することで、秋成の依拠したであろう訓読文を再構築した。

その成果は、秋成研究会での数回の討議や中国小説研究の専門家上智大学文学部国文学科の長尾直茂氏との討議を踏まえ、同研究会編の『上田秋成研究事典』(笠間書院、2016-1)の「12 典拠作品の世界 原文・書き下し文・語釈・日本語訳」としてとりまとめ、発表した。

この成果をうけて、秋成の小説と比較することで、そのリライトの実態を明らかにした。特に、リライトについては、近代小説の研究成果を参照しながら、キャラクター・ストーリー・シーン・ナレーション・ワールドモデルという各小説諸要素における実態について、まずその5要素の定義を検討し、秋成研究会編の『上田秋成研究事典』(笠間書院、2016-1)の「作品分析のためのマニュアル」としてとりまとめ、これを発表した。

さらにこれを受けて、『雨月物語』各編について、この5要素の観点からの試験的分析を、上田秋成研究会編の『上田秋成研究事典』(笠間書院、2016-1)の「1 『雨月物語』」の「あらすじ」としてとりまとめ、これを発表した。

また、井上泰至「『武家義理物語』の語り西鶴・秋成・虚子」(『日本文学』66(1)、2017-01)において、上田秋成が意識した先輩作家である井原西鶴のナレーションとの比較から、初期読本のナレーションの性格について明らかにした。

最後に井上泰至「二つのリライト—『雨月物語』翻案の本質」(『読本研究新集』9、2017

- 06)において、これまでの成果をすべてふまえて、『雨月物語』に収められた翻案作品毎の方法を検討し、作品間の比較・分類を行った。

4. 研究成果

調査の結果、和刻本『剪燈新話句解』については、明刊本・朝鮮刊本・和刻本の異同を確認し、特に和刻本の誤植を確認、併せて読解の参考書を整理した。「范巨卿鶏黍死生交」については、『警世通言』よりも『古今小説』本文に依拠することを推定、そのうち甲本乙本のいずれに依拠したかについては今後の課題となった。「白娘子永鎮雷峰塔」については、『警世通言』の中でも乙本系によった可能性の高いことを明らかにした。また、その検討の結果、秋成が依拠したであろう訓読文を再構成した。これらをふまえて、『雨月物語』における中国小説のリライトについて検討を行った結果、

1. ストーリーの戦略も世界観も変わる「浅茅が宿」のようなケース
2. ミニマムの改変で別の作品にすり替わる「菊花の約」「夢応の鯉魚」のようなケース
3. 1・2の両方を行った「蛇性の姪」のようなケース

の3つのケースに分類できることが明らかとなった。

また、上田秋成の小説には直接関係がないか、『今古奇観』の最善本をはじめとする在外文献の調査によって、日本文学に大きな影響を与えた中国白話小説自体の書誌と諸本の状況について基本的なデータを収集することができた。

その成果は研究協力者、丸井貴史により論文「『今古奇観』の初期刊本 宝翰楼本から同文堂本まで」(上智大学国文学論集)49、2015-1)に発表した。

今後は、『覺世雅言』『覺世恒言』『覺世名言』のような希少な小説集についての書誌情報を含め、より広範・精緻な調査を継続し、その全体像の解明に資したい。

さらに、諸本調査の過程で、大名蔵書の目録の中に、かなり白話小説があったことを確認した。いまだ調査が大名蔵書全体に及んでいないが、江戸・京都・大坂の書肆を通して、珍本収集・語学教育の双方の目的から収集が行われた可能性が見えてきたことは確かである。今後は、よりその調査範囲を検討するとともに、蔵書が唐本・朝鮮本なのか、和刻本なのかについても、その冊数や現存する蔵書から確認し、中国小説伝播の実態について解明をおこなう基礎的なデータが集積して、発表を期したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

井上泰至「二つのリライト—『雨月物語』翻案の本質」, 読本研究新集、査読有、9、2017-06、62-76

井上泰至「『武家義理物語』の語り 西鶴・秋成・虚子」, 日本文学、査読有、66(1)、2017-01、36-46

丸井貴史「『今古奇観』の初期刊本 宝翰楼本から同文堂本まで」, 上智大学国文学論集、査読有、49、2015-1、19-36

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

秋成研究会(井上泰至、木越治、丸井貴史、木越秀子、近衛典子・糸川武志、加藤十握・紅林健志・郷津正・穴戸道子・高松亮太・三浦一朗)

『上田秋成研究事典』(笠間書院) 2016、427

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

井上泰至(INOUE, Yasushi)
防衛大学校・人文社会科学群・教授
研究者番号： 90545790

(2)研究協力者

木越治(KIGOSHI, Osamu)
上智大学・文学部・元教授

丸井貴史 (MARUI, Takafumi)
日本学術振興会特別研究員